****

つくば教会だより 2026 年 10 月号

編集：カトリックつくば教会　〒305-0834　茨城県つくば市手代木 261-6
TEL 029-836-1723　FAX 029-836-4136
ホームページ　https://www.catholic-tsukuba.jp

****

私たちの母、聖母マリア

満月の夜、暗闇の中で何千ものろうそくが揺れ、「アヴェ・マリア」の祈りが響き渡ります。何万人もの巡礼者が教皇レオ十四世を囲み、聖母マリアに祈りをささげる光景は、教皇のルルド訪問を象徴する、心に残る出来事となりました。

これまでの教皇ヨハネ・パウロ二世や教皇ベネディクト十六世とは異なり、教皇レオ十四世はロザリオ大聖堂を見下ろすテラスから行列を指揮するのではなく、ほかの巡礼者とともに一人の巡礼者として祈りの列に加わりました。

祈りの行列は、マサビエルの洞窟の前から始まりました。そこは、教皇が前日にルルドへの巡礼を始めた、まさにその場所です。冠を戴いた聖母マリアの像が明かりに照らされる中、行列は広場を進みました。

その祈りの中で、ロザリオの喜びの玄義が黙想され、「アヴェ・マリア」がフランス語、イタリア語、英語、スペイン語で唱えられました。教皇はゆっくりとロザリオ大聖堂の前庭へ向かい、そこで話をされました。その中で、聖母マリアがベルナデッタに、ここへ来て行列をするよう願われたことを思い起こされました。

私はこれまで何度かルルドを訪れたことがあります。訪れるたびに、心身ともに癒やされたような、そして神様とマリア様により近づくことができたような思いを抱いて帰ってきました。

9 月 26 日から 28 日にかけて、教皇レオ十四世がフランスを訪問された様子をテレビで見ました。教皇は日曜日にルルドを訪れましたが、その時も教皇としてではなく、一人の巡礼者としてそこにおられました。そして病気を抱える人々と時間を過ごし、一人ひとりに声をかけ、話をされました。その姿は、私たちにとって大切なことを教えてくれたように思います。

10 月 11 日には、市民ホールやたべ（つくば市谷田部 4711 番地）で、さいたま教区第 13 回マリアンフェスティバルが行われます。午前 10 時からミサが始まります。どなたでも参加できます。

この日、私たちはマリア様のもとに集まり、マリア様の存在を喜び、その取り次ぎと私たちの信仰を共に祝いたいと思います。どうぞ多くの皆さんがお越しくださいますように。



カトリックつくば教会担当司祭
ウィリアム・ドネガン